



ひとが咲くまち。
ひたちなか

ひたちなか市 中小企業ガイド2022

“生活×自然×人
グッドバランスなまち
ひたちなか”で
あなたのローカルライフを
実現しよう！





Contents

はじめに

- 1 …… ひたちなか市をご紹介

大学生インターン受入先紹介レポート

- 2 …… (有)黒沢製作所
6 …… 民宿満州屋 (イバフォルニアベース)

茨城高専女子×市内中小企業インタビュー

- 10 …… (株)センクリード

【中小企業紹介コラム】 ひたちなか市で 働く 暮らす 好きになる

- 12 …… 新熱工業(株)
13 …… (株)エスディーエル
14 …… (株)あ印
15 …… アポロアイシーティー(株)
16 …… (株)幸田商店
17 …… 檜山工業(株)
18 …… (有)小林製作所
19 …… (株)ネクサスソフトウェア
20 …… (株)ラフトレイド・エンジニアリング
21 …… (株)ニシテック
22 …… (株)三富子ケース
23 …… (株)システムリンク
24 …… (株)舟木電業社
25 …… (有)黒沢製作所
26 …… (有)黒澤醤油店
27 …… (株)エイブイシー

奨学金を返還するあなたへ

- 28 …… ひたちなか市奨学金返還助成制度



はじめに

生活×自然×人 グッドバランスなまち ひたちなか

ひたちなか市は、東京から約110km、茨城県の中央部からやや北東に位置する人口約15万7千人の市です。東は太平洋に面していて、海浜部では古くから水産加工業が、都市部では電気、機械、精密機器などの工業が基幹産業として発展しています。また、市内には北関東自動車道が直結する茨城港常陸那珂港区があり、国際流通港湾として整備が進められていて、物流の優位性などから多くの企業が進出するなど、県内有数のものづくりのまちとして躍進を続けています。

また、地元でとれたさつま芋を蒸して、じっくりと乾燥させて作る名産品の『ほしいも』は生産量が日本一。冬になると、「ほしいも」をすだれに干す風景が農家の庭先などあちこちで見られます。

そのほか、ネモフィラやコキアをはじめ四季折々の草花を楽しむことができる国営ひたち海浜公園や日本で唯一のほしいも神社など、注目を集める観光スポットも数多くあります。

豊かな自然と産業をベースに未来に輝くまち、ひたちなか。海と緑が楽しめるだけでなく、スーパーや大型ホームセンター、ショッピングモール、映画館といった施設もあり、自然と快適な都市環境が整っています。また、昔から多くの移住者を受け入れてきた多様性を大事にする懐の深いまちです。まさしく「ほどよく田舎でほどよく都会、そして人が優しい〜グッド・バランスなまち〜」となっています。



詳しくはこちら



面積	99.97km ²
人口	157,093人
男	79,134人
女	78,006人
人口密度	1,571人/km ²
世帯数	70,319世帯

※令和3年12月末現在

ローカルキャリア・インターンシップの取組み

ひたちなか市では、(株)ココロマチとコラボレーションして、地方に興味のある学生を対象に、2019年度以来2回目となる『学生向けローカルキャリア講座・インターンシップ企画』を、2021年度に実施しました。この冊子では、そちらの体験レポートも掲載しています。

『ひたちなか市 × (株)ココロマチ』コラボ事業の全体内容はこちら▲



あなたの夢をひたちなか市で

地方で『働く』『暮らす』といった、ローカルキャリアに興味のある方は是非この冊子を手にとってください。あなたのローカルキャリアライフを実現する魅力的な市内の地方企業情報も掲載しています。あなたの夢をひたちなか市で実現してみませんか。

市の公式ホームページでも市内中小企業を紹介中。ページはこちら▲





インターン
参加者

■ 須澤 華さん [日本大学商学部] ■ 田中 陸也さん [中央大学法学部]
■ 佐野 華恵さん [早稲田大学政治経済学部]

[あなたの将来に「ひたちなかで働く」という選択肢はありますか?] ひたちなか市にあるものづくり企業 黒沢製作所の魅力に迫る!

都心に住んでいる私たちが、地方で働く…渋谷でショッピングしたり、新宿でランチしたりしたいし…遠くで一人生活するなんてできるのかな?でも、地方でのんびり暮らすのも悪くない…!大学生になってからはサイクリングやグランピングをしに、地方へ行くことも度々。そんな思いを抱いた私たち大学生3人が、ひたちなか市と地域プロモーションを専門とする(株)ココロマチによる実践型ローカルキャリアインターンシップに参加しました。活動の中で私たちは黒沢製作所の黒澤専務にインタビューさせていただき、ひたちなかで働き、生活することについて考えてきました。

このプログラムに参加するまで「ひたちなか」について全く知らなかった私たち。

え…?ひたちなかって東京から電車で揺られ、乗り換えいらずの2時間で行けるの?農業も産業も観光も充実してる…もしかして…わたしのワガママが叶えられる街…?と驚きや発見が盛りだくさんでした。この記事を通じて、あなたの将来にひたちなかでものづくりという選択肢ができると嬉しいです。

ひたちなかの魅力まだ気づいてないってやばない?

「好きなことをやれる、なんでもできる、チャレンジができる場所がひたちなかです——」。ひたちなか市で祖父の代から続く黒沢製作所の3代目、黒澤専務は同市の魅力をこのように表現します。

「ひたちなかってどこにあるの?そもそも何県?」。ひたちなか市についてほとんど何も知らなかった私たち3人ですが、ひたちなかインターンシップ・ものづくりコースで黒沢製作所を見学・取材した経験を通じて、たくさんの発見がありました。

その一つ目が…「行って楽しい、住んで楽しいまち」であること!ひたちなか市は茨城県の中央部からやや北東に位置し、東京駅から特急で約90分の場所にあります。そんな同市には、花と緑に囲まれた都市公園である国営ひたち海浜公園や、ひたちなか海浜鉄道湊線、那珂湊おさかな市場があり、また勝田全国マラソンや、ひたちなか祭りが開催され、イベントも盛りだくさん。マラソン大会で参加者に配られる「完走いも」からはひたちなか市民のユーモアが伝わります。

食の宝庫でもあるひたちなかでMust Eatは…「ほしいもとあんこう鍋と那珂湊焼きそば！！ほしいものは生産量日本一を誇る茨城県の特産品です。ほしいも神社では「ほしいものをしっかり念じ心を込めてご参拝ください」笑

そんなひたちなか市に魅了され移住される方も多く、その中には那珂湊の芸術祭に関わられた芸術家さんもいらっしゃいます。

「若い人はチャレンジができる場所だと思います」と力強く語る黒澤専務の言葉が印象的でした…

大丸屋の芋干し施設▶



世界に誇る企業城下町ひたちなか！



▲那珂湊おさかな市場

二つ目の発見は…「産業のまち」であること！さきほども述べましたが、ひたちなか市的那珂湊地域では、古くから水産加工業が発展し、特にタコの加工は日本一の生産量を誇っています。そんな那珂湊地域でのMust Visitは那珂湊おさかな市場！！太平洋に面し、近海から遠洋までの豊富な海産物が水揚げされる那珂湊漁港が隣接することから、市場にある7つの食事処と5つの海産物店では、海風に触れ大海原を背景に食事や買い物を楽しめます。

また、ほしいもも全国の生産量の約9割を占めていることからわかるようにひたちなか市にとっては重要な存在です。

しかし、やはりひたちなか市の産業の根幹を支えているのは工業です。今から28年前、1994年に勝田市と那珂湊市が合併してひたち

ちなか市が誕生したことから、多様な産業の集積地となっています。

企業の城下町として発展してきた勝田地域には、「ひたち」から連想できるように日立製作所グループ企業などが数多く立地しています。電機、機械などを基幹産業として発展してきたひたちなか市では、日立ハイテクにより2021年に半導体製造・解析装置の新工場が完成。世界規模で需要の高い半導体製造の重要拠点となっています。

ひたちなか市で生産された部品は輸出され世界の様々な場所で今も活躍しています！

黒澤製作所の昔と今

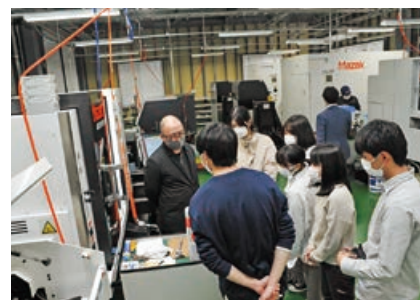
本プログラムを通じて大変お世話になったのが、黒澤製作所！これまでに制作した部品はなんと、5,000種類以上と、顧客ニーズの多様化と比較的生産が容易な大量生産が海外に流出した結果、生まれた多品種少量生産の需要の高さを体現する会社です。創業は1988年、黒澤専務のおじいさまが始められました。生粋のおじいちゃん子だった黒澤専務。「孫と一緒に仕事するんだ」と周囲に語る祖父の期待に反して、入社することを悩んだことも。その後専務が高校在学中におじいさまが亡くなってしまい、会社に入るか考えた際に「入る前に会社を見た時に、圧倒的にブラック企業だったのが大きな壁でした。一また、大好きなおじいさんが亡くなった後にやる意味ないのでは？」と考えたそうです。

でも、「おじいさんがやってたからやらなきゃな」と思い入社を決め、雇用環境を改善すべく専門学校に入り、システム開発を勉強。「学校卒業後、会社に戻りましたが、中はシツチャカメツチャカで、管理など何もないに等しい状態でした。こんなじゃやっつけられない。やれることは考えてやろうとの想いからシステムの開発をし、社員の皆さんと腹を割って話し、今のシステムを作って生産体制を構築しました」

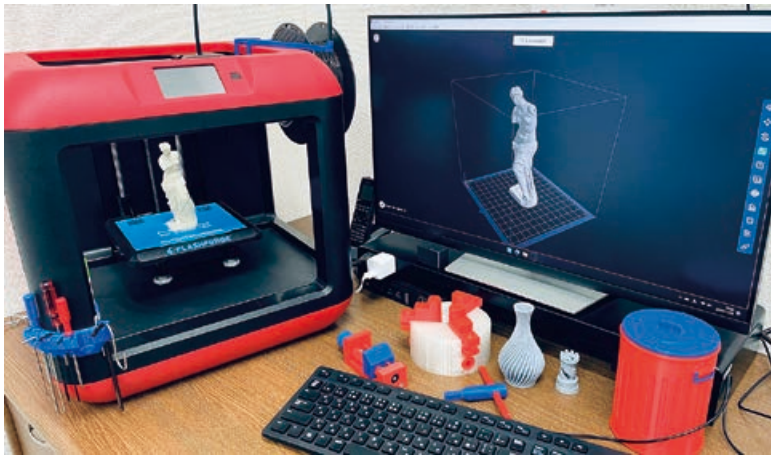
「従業員に助けられて切り抜けられたんです」そう熱く話す黒澤専務のお話から、黒澤製作所の温もりが伝わりほっこりする私たち3人でした。



▲リモート活動時のオンライン工場見学



▲現地視察時の工場見学では工作機械を間近で体感



▲黒澤専務の挑戦を可能としている3DCADと3Dプリンター

黒澤製作所の業務の多くは、精密機械に用いられる0.005ミリ単位の精度を要する精密部品を作成することですが、最近では黒澤専務が本来の業務の傍らに「ジャンボ餃子の型」を作成したそうです！事の始まりは足長バチの巣の駆除でした。黒澤製作所付近に突如できた蜂の巣を駆除すべく、専門業者に依頼。偶然にも社長とは知り合いであったことから話が盛り上がり、イベントで使用するジャンボ餃子の型の製作を依頼されました。餃子の皮の形にこだわりのあるクライアントと、新機器に挑戦

したい黒澤専務の想いが合致したことから、ジャンボ餃子の型が完成しました。

他にも、餃子の型と同様に通常の業務の合間で野鳥の会で使う天体望遠鏡とカメラを接続するための部品や、UFOキャッチャーの駆動部品、原子力研究のモックアップ品に加え、ほしいも乾燥機などなど…できることはなんでもやっている企業が、黒澤製作所です。人との交流や想い、挑戦を大切にされるからこそ出来る商品の数々。このように様々なところで用いられる部品を作成することで、近隣の人に黒澤製作所が何を作成しているのかを理解してもらう際の導入部分として有効であると感じました。

「県外で育ってきた私でも、黒澤製作所で働けば同様のことができるのでしょうか？」と質問したところ…

「人と触れ合って話せる人であれば誰でも可能」とおっしゃっていました。「SNSだったら多分こうならなかったけど直接会ってお茶したからそうなった」。コロナ禍で実感する対面の大切さを改めて教えていただきました。

職場きれいだ 製作所

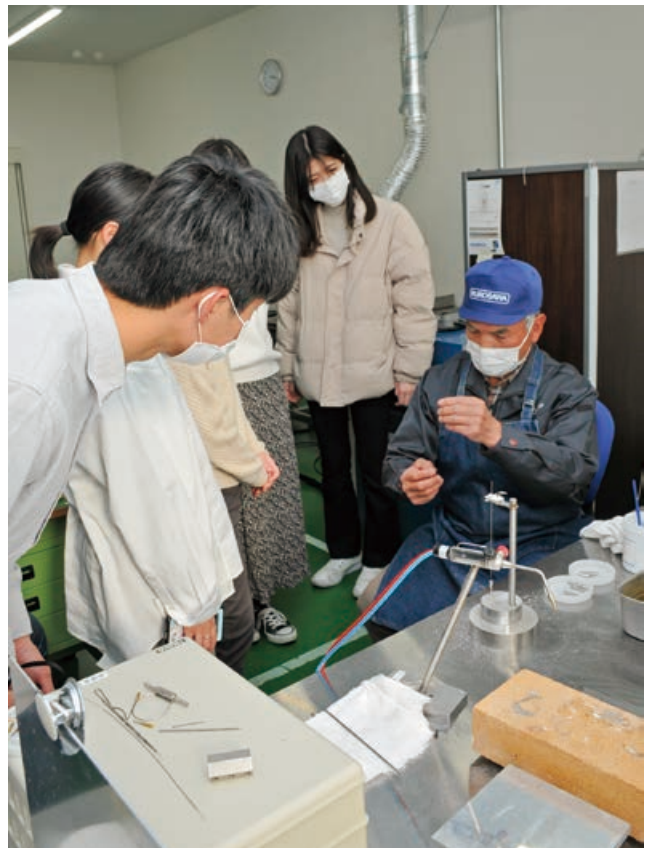
黒澤専務が「色々な人がいます。明るい人も黙々とやるのが好きな人も」と語るように、黒澤製作所の従業員の方々も少数精鋭かつ多種多様！そしてそれを支える環境もあります。

現在は男性16人、女性4人の方が働き、休憩時には筋トレやサマーベッドの上で日光浴をされる方も。

工場見学で驚いたことは、綺麗で静かな工場であること！「怪我が身近に潜る仕事だからやる時は集中してやる、休憩時間は食堂で和気あいあいと話す、メリハリのある職場です」。

元はブラック企業とも言える状況だった黒澤製作所ですが、現在の平均残業時間は月に約15時間。勤務時間は8:50-17:00で、年間休日は118日です。また、有給休暇の平均取得日数は年に9.4日です。

国家資格取得のサポートもあり、女性従業員が資格取得後に異動された事例もあります。



熟練の職人さんに作業について説明いただきました▶



▲0.005 ミリの精度が必要であるということを説明している黒澤専務



▲設備を丁寧に説明いただきました

黒沢製作所では、「目標を持つこと」「やる気があること」「センスがあること」「健康であること」を採用時に求めています。ものづくりが好きな人だけでなく、金属加工が好き・興味がある人も募集しています。中途採用が多い現状ですが、新卒も積極的に受け入れています。文系卒も、言語化が苦手な技術職を支える存在として重要な人材です。「アイデアを外から吸い出してくる人として活躍して欲しいです。理系は論理的だけどインプットとアウトプットが文系は得意だと思うので」と黒澤専務。

「金属は生き物です。ただの硬い塊のように見えて、気温・湿度の1度の変化によって変形する、繊細なんですー」。黒沢製作所での働き方や黒澤専務、金属に興味のある方、もっと知りたいと思われた方、ぜひ黒沢製作所の門を叩いてみてください。

学生から受入先への提案内容

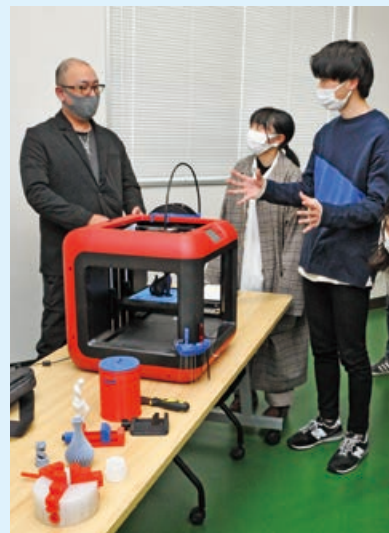
～若手人材の確保に向けて～

ワークショップで未来の職人を勧誘

- 3Dプリンターを用いてイベントを開催。地域住民をはじめとした親子にもものづくりに興味を持ってもらう
⇒実物を見たことがない人や、作ったことがない人が興味を持ってくれる。
⇒子供にも、ものづくりに興味を持ってもらうことで、将来の就職活動の選択肢になる可能性◎。
⇒体験した加工サンプルは記念品として進呈。
- イベントの際には精密機械を何に用いているのか等、業務内容も説明するほか、作業工程を見学してもらい、黒沢製作所を知ってもらう。
⇒参加者に何を作っているのか知ってもらうだけでなく、従業員も自分たちが何を作っているのか認知できる。

黒澤専務に弟子入り！あなたも黒沢製作所の一員に

- 黒沢製作所で働く学生を1人募集。
- 専務に同行してもらうほか、3Dプリンターを用いてレベルに合わせた業務遂行を体験してもらうことで、やりがいを体感してもらう。
- 満州屋に滞在してもらい地域(ひたちなか)を知ってもらう。
⇒採用におけるミスマッチを減らし、友人への口コミから認知度を向上させる。
⇒学生の働くイメージ(どのような仕事?どのような人が働いているの?ひたちなかはどのような街?)を具体化させる。





インタビュー
参加者

■ 榛葉
■ 川村

結美さん [中央大学法学部]
佳恵さん [東京都市大学都市生活学部]

■ 丹羽 潤一郎さん [日本大学文理学部]

茨城県ひたちなか市で『民宿満州屋』、『ibafornia project』を運営する小池伸秋さんの心豊かに働き暮らすマインドとは

東京から電車で1時間半。茨城県の中央部からやや北東に位置するひたちなか市は、国営ひたち海浜公園をはじめとした誰もが知る観光スポットがあるだけでなく、タコの加工生産やほしいもの生産、さらには日立グループの工場が多数存在するなど、幅広い産業が根付くまちです。

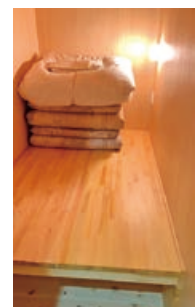
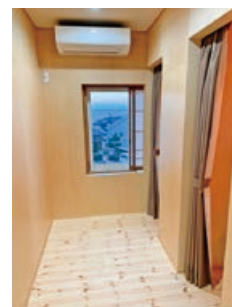
そんなひたちなか市で、『民宿満州屋』を経営しながら地域活動『イバフォルニア・プロジェクト』のメインメンバーとして活躍する小池伸秋さん。ひたちなか市の環境や小池さん自身のライフストーリーについて迫りながら、ひたちなか市で働き暮らすことの魅力を掘り起こします。

小池さんが営む『民宿満州屋』

『満州屋』は、茨城県ひたちなか市の阿字ヶ浦海岸付近で営まれている民宿です。現在の若旦那は3代目の小池伸秋さん。今回インタビューをさせていただき方です。

1980年代に海水浴場として日本一になるほど海水浴客が押し寄せていた阿字ヶ浦では宿泊施設が足りておらず、次々と民宿が開業。『満州屋』はその流れに乗って、現・若旦那 小池さんのおじいさまが創業されました。しかし2000年頃、阿字ヶ浦海岸の砂浜が減少するなどの影響もあり、海水浴客が大幅に減少したことを受けて、ひたちなか市の民宿全体で、夏の海水浴だけでなく、通年でスポーツ合宿の団体客を受け入れるなど、時代に合わせて民宿の業態やターゲットを変えてきました。

コロナの影響や後継者不足で廃業する民宿も増える中、『満州屋』は建設関係の仕事に従事している方々やワーケーション目的の方をお客様としながら経営を続けています。



地元・ひたちなか市に生きる小池さんが『満州屋』を継ぐまで

『満州屋』を手伝いではなく、きちんと継ごうと決めたまっかけは、2011年の東日本大震災。この震災で茨城県内でも少なくない被害があり、小池さんは震災のダメージの大きさを見て、「いい加減ちゃんとしないな」と思い、『満州屋』の売上を伸ばすために広報戦略などを強化しようと考え始めます。自分にもできることを探した結果、趣味でやっていたキャンプを活かそうと思い、2015年に民宿に併設してキャンプ場の運営を開始しました。

キャンプ場を新たに始める際には、やってみたいという思いの一方で、本当にうまくいくのかどうか悩んだそう。そんな中で、じゃらんリサーチセンター(JRC)が募集していた『未来を切り拓く「次世代旅館・ホテル経営者育成プログラム2015」』への参加が、キャンプ場を始める勇気を出すきっかけとなりました。

「このプログラムを通して、現在でもお互いに泊まりに行く仲の、刺激をシェアする仲間たちに出会えました。これは人生を変えるくらい良い出会いだったと思います。プログラム参加者の世代はバラバラでしたが、共にプログラムに参加するうちに『このメンバーに負けてられないな』という思いが生まれ、キャンプ場を始める勇気を出すことが出来ました。その結果、始めた当初はうまくいかないことや大変なこともありました。今では『満州屋』経営の柱になっています」

刺激しあえる仲間の存在が自分の背中を押してくれたという話を聞き、私たちもこれまでの出会いやこれからの出会いを大切にしていこうと思いました。

「境遇の違う仲間とも平等に接する」小池さんのマインド

小池さんが『満州屋』の民宿経営の傍らメインメンバーとして活躍している『イバフォルニア・プロジェクト』。阿字ヶ浦海岸で行われている地域活動で、「100年先も豊かに暮らせる海・街をつくる。」をテーマに掲げ、2018年春に地元の有志が立ち上げました。阿字ヶ浦海岸で開催されている『イバフォルニア・マーケット』をはじめとして、コミュニティ&コワーキングスペース『イバフォルニア・ベース』、キャンプ場の運営など、様々な活動をしています。

そもそも、小池さんが地元で地域活動に取り組み始めたきっかけは何だったのでしょうか。

「大きなきっかけとしては、NPO活動や災害支援ボランティアへの参加です。茨城県つくば市でボランティアをやっていた時に、その様子がNHKの番組で取り上げられました。たまたまですが、その時僕がリーダー的な役割をしていたので、番組の中で僕が活動している様子も取り上げていただけました。それを地元の方が見てくれて、『外の地域のこともいいけど、地元のこともやって欲しい』と声をかけられたんです。その時に『いろんな他の地域でボランティア活動をしているのに、地元のことは全然やってなかった』とハッとして、「もうちょっと地元のこともやらなきゃダメかな」と思い始めました。

2018年3月、「ひたちなか市の海岸のあり方を考える会」という地域の宿泊業や飲食業などの若手人材や商工会議所青年部の有志を集めた勉強会を発端に、『イバフォルニア・プロジェクト』が始まります。

第2回の「ひたちなか市の海岸のあり方を考える会」から参加された、『イバフォルニア・プロジェクト』発起人の一人となる小野瀬竜馬さんは、小池さんより7歳ほど年下。ワーキングホリデー制度を利用して3年ほど海外生活を経験し、ひたちなか市へ戻られた経緯を持っています。ひたちなか市内の佐和地区で育った小野瀬さんは、阿字ヶ浦地区で開催されたこの会では“よそ者”的存在でしたが、地元のビーチを海外のような自由なビーチにしたいという『イバフォルニア・プロジェクト』構想をこの会で提案します。小野瀬さんの固定概念にとらわれない大胆なアイデアに感銘を受けた一方で、最初は違和感や不安もあったと小池さんは言います。「構想を聞いたとき、かつては“東洋のナポリ”と言われた海岸に、“イバフォルニア”という名前もどうかと思ったし、阿字ヶ浦の歴史や伝統をガラッと変えるようなプランだったので、正直抵抗感もありました。そこで、竜馬くんたちが考える未来がどういふものなのか、という本質的なところを語り合ったんです。時間をかけて話した結果、多少方法やスタイルは違えど、最終的に目指す場所は一緒だと思い、自分もプロジェクトに参加して取り組んでいこうと決めました」



▲イバフォルニア・プロジェクトの中心メンバー。
左から小池さん、小野瀬さん、黒澤さん



プロジェクト開始4年目の現在も、小池さんと年齢の離れた大学生参加者から「のぶさん、のぶさん」と慕われ、年の離れた参加者とも気さくでフラットな関係性を築いていらっしゃる様子がとても印象的でした。「年齢が若くても大人扱いして平等に接する」という小池さんのマインドが、よそ者や若者でも活躍できる環境を実現していると感じます。

とはいえ、「地域のため」とか「誰かのため」と言われるとなかなか腰が重く行動ができないもの。小池さんはうまく“ジブンゴト”にして、自分が楽しめるからやるというモチベーションで活動していると言います。

「東京で就職活動していた頃までは『社会のために、役に立つことを』というモチベーションで周りに合わせて生きていましたが、就活で挫折してメンタルをやられてしまった。そこから自分本位に物事を考えるようになり、価値観が変わって、自分をつき動かす原動力は『自分自身が楽しいとか心地よいと思えること』という考えで活動しています。この考えに至ってからいろいろなのが好転していったように思います。なので周りの方に地域活動を手伝ってもらおうときも、『仕事を強制しない』『楽しくやる』

ということを何より大事にしている、その方にとって取り組む内容が“ジブンゴト”に感じられるように気をつけています」

地域活動などを「義務」ではなく自分が楽しむために行うものと捉え、周りの方とも協力しながら楽しく活動する姿勢が、『イバフォルニア・プロジェクト』のような地域を盛り上げる活動を続ける大事な要素なのだと感じました。

組織運営や経営の視点がもたらす「持続可能な活動」



▲イバフォルニア・マーケットの様子（写真は令和元年開催時）

『イバフォルニア・プロジェクト』を始めるにあたって、小池さんは「まずビジョンを決めよう」と提案しました。その頃ちょうど経営や事業運営におけるビジョンミッションバリューの勉強をされていた小池さん。「“北極星”とも言いますが、迷ったときに戻れる指標が必要だと思い、『100年先も豊かに暮らせる海・街をつくる』というビジョンに決めました。そして、じゃあそのビジョンを実現するには何をしたらいいか？と考えるところからスタートして、その後も企画を進めていく中でこれはビジョンからずれているから見直そう、とメンバーで話すなど、例えばトラブルや不具合が生じたときにも立ち返る場所を、まず最初に設定できたのはよかったなと感じています」

決めたビジョンに基づき最初に行ったのは『イバフォルニア・マーケット』という、阿字ヶ浦海岸にキッチンカーや雑貨の販売など様々な店舗が並ぶイベント。その開催前に行ったクラウドファンディングには資金集め以外にも目的があったのだとか。「クラウドファンディングには資金集めという目的はもちろんあるのですが、それだけでなく、活動をいろんな人に知ってもらおう広報的な効果や、出来たばかりの組織のチームビルディングにも役に立つはずと考えていました。クラウドファンディングページ作成を行う中で自分たちがやりたいことを再確認して発信に向けて言語化できたほか、チーム内の役割分担が決まり整理できたので良かったです。3ヶ月間で、目標1,000,000円だったものが結果的に1,500,000円、112名の方にご支援いただけて大成功に終わりました」

『満州屋』、『イバフォルニア・プロジェクト』どちらも、小池さんの組織運営や経営に関する視点が、新たな活動の成功をもたらし、現在まで活動が続いているのだと感じました。

恵まれた環境であるひたちなか市で描く未来

小池さんをはじめとして様々な方が活動に参加されて現在まで続いている『イバフォルニア・プロジェクト』。こうした新しい企画や活動を進めていくことは、周囲の阿字ヶ浦やひたちなか市の人々にはどのように受け止められてきたのでしょうか。

「僕がひたちなか市出身だからということも大きかったと思いますが、『イバフォルニア・プロジェクト』を進めていく上で大きな障害となることはほとんど起きなくて、恵まれた環境だと感じています。新しいことを始めるとどうしても地域の人たちから否定的な反応をされたりすることもあると思うのですが、そういったことはひたちなか市では全くなかったです。積極的に応援してくれるというよりは自分たちの自由にやらせてもらえる感じ。地域内外の人たちに開かれたまちなんだと思います」

そんなひたちなか市で、小池さんはどのような未来を描いているのでしょうか。

「コロナ禍により、人々の価値観に変化が生まれ、自然環境や暮らしの価値が改めて認識されたことで、『イバフォルニア・プロジェクト』が目指す、海(自然)とともにある暮らし方・ライフスタイルにも共感してくれる人たちが増えています。そうした暮らしの質にこだわった生き方や選択肢を選ぶ価値観はもっと広がると思います」

『イバフォルニア・プロジェクト』の将来的な展開についても聞いてみると――

「今後、僕たちの活動をきっかけに新しい組織が次々に生まれていけばいいと思います。0から1を作り出す、新しいことをやるマインドをこのひたちなか市で僕たちで醸成して行って、そのマインドを引き継いだ人たちが新しい活動をする。その連鎖が次々と生まれるまちにしていきたいと考えています」

小池さん自身の、年齢・性別関係なく他者を受け入れる寛容さ、組織運営に関する知識に加え、ひたちなか市の地域内外の人たちに開かれた環境が、『イバフォルニア・プロジェクト』の成功に繋がり、地域内外の大学生から幅広い年代の参加者を集めています。私たちも県外からのインターン生として『イバフォルニア・ベース』に伺った際、小池さんたちのアットホームな雰囲気がとても心地よく、地元の大学生との交流もあり背伸びせず自然体でいることができました。

自然に囲まれ、地域に根付いて心豊かに活動する人たちがいるひたちなか市は、自分らしく働き、暮らす場所を求める方々にぴったりの場所と言えるのではないのでしょうか。



学生から受入先への提案内容

～人や地域をつなぐイベント企画～

海の見える座談会

- イバフォルニア・ベースで、ひたちなかと他地域で活躍するHotな人材が地域活動について対談する座談会。他地域のHotな層に魅力が届き活動自体の向上を図る
⇒一泊二日の日程で、2～3地域から合計10人程度の参加者を募る。
⇒ゲスト講師として、マーケティングやサイト運営に長けた講師を招く。
- 地域活動をするにあたって魅力的な阿字ヶ浦を地域外のHotな層に強くアピール
- 双方向型の座談会とすることで参加者にも有意義なほか、地域プロジェクトのブラッシュアップにつながる
- 人と人、人と地域を強くつなげることで、ひたちなかをさらにHotな地域に！

ひたちなか海浜鉄道 『自分らしさ展覧会』

- ひたちなかの選択肢を鉄道の車内広告(手段)と写真(方法)を用いて視覚的に伝達する情報発信に特化したイベント。多くの人に自分らしい選択肢のきっかけを提供する
⇒伝える内容は、ひたちなかで自分らしさを実現する人たちの活動の瞬間。
⇒鉄道は地域内外の不特定多数が利用する等、関係人口に近い位置へのアプローチが可能。
- 感情の動機付けにより、地域内外でひたちなかの魅力を再発見するきっかけになる
⇒【地域内】新しいことをしやすい地域づくり／【地域外】ひたちなかに関わるきっかけづくり
- 偶然鉄道で見た写真をきっかけに、ひたちなかで自分らしさを実現するというストーリーにつながる



▲写真左から(株)センクリード：石川さん、川上さん、関根さん/茨城高専：根本さん、軍司さん、鈴木さん

ひたちなか市では、F1層と呼ばれる20～34歳の女性が住みやすいまちづくりを進めています。

また、市は茨城工業高等専門学校(茨城高専)と官学連携事業を行っており、その一環として、理系出身の女性が活躍する市内企業を高専生徒が訪問し、働き方やライフスタイルなどをインタビューしたうえで、企業やまちの魅力を発信する事業に取り組んでいます。

今回は茨城高専2年生の3名が(株)センクリードを訪問し、ITのシステム開発やWebサイトのデザイン制作の分野で活躍している社会人1年目の高専OG3名にインタビューしました。

株式会社センクリードとは？



わが社のスゴ技

お客様の満足度を第一に考え、システムの総合コンサルタントとして、システムを納めてからの状況に応じたケアも含めた、質の高いサービスを提供しています。一押し製品はデジタル文字を高い精度で読み取り、電子データ化することで、確認作業を効率化するソフトウェアです。少数精鋭でありながらも、他企業の一步先を行く柔軟なアイデアと確かなノウハウで、お客様のワンステップ先の未来づくりをサポートしています。

基本情報

代表者 代表取締役 竹之内 修
創業年 2009(平成21)年10月
資本金 1,000万円
所在地 新光町38番地
 ひたちなかテクノセンターB405
従業員数 30人(男性23人/女性7人)
業種 IT・情報通信業



企業
ホームページ
QRコード

現場から一言

弊社は開発部門とデザイン部門に分かれています。デザイン部門では、Webサイトの提案、制作、保守を行っています。Webサイトの制作も以前に比べシステムの要素が多く含まれますので、開発部門と協力しながら仕事を進めます。

開発部門は自社パッケージ開発にも積極的に取り組み、展示会への参加など販路拡大にも取り組んでいます。これからも社員一丸となって頑張っていきます。

インタビューを通して感じたこと

このインタビューは高専生が取材し、記事化しています。

高専で学んだことを活かして、男女の差がなく活躍できていることがよくわかりました。また、将来の出産や育児についても、環境が整っていることで安心してキャリアを重ねていけると思いました。

社会人女性のやりがい、周りの人たちの優しさ

今のお仕事のどういうところにやりがいを感じていますか？

#仕事のやりがい #向上心が大事

石川) 覚えれば覚えるほど仕事がやりやすくなっていくということにやりがいを感じます。学生の頃はテスト範囲しか勉強しないタイプだったのですが、今は仕事内容以外のことも考えなきゃいけないので、それが楽しいです。

川上) 仕事の効率化のために自分で考えて改良し、経験を積んでいくことにやりがいを感じます。私自身、いろんなことを知っていることが楽しいと思うタイプなので…！

関根) 結果がすぐ出るというところにもやりがいを感じます。間違いがある限りは改良しなければならないので、やるべきことがすぐ分かります。何をしたらいいのか考えて、実際に修正して、それがうまくいったら嬉しそうですね。

社員目線で貴社の良いところ、これは特に女性が活躍できる場だと思うことはありますか？

#男女間に差なし #男女それぞれ得意な分野を“分担”

関根) 女性だけが特に活躍できるというのはいい意味でないです。そこに関してはないのが一番いいと思います。

石川) ただデザイン分野では若干あるかもしれません。あくまで基本的にですが、女性は女性向けのサイトを作って、男性は男性向けのサイトを作ります。そこに関しては、分担が若干あるかなと思います。もしかしたら女性向けのサイトを作っているときは活躍しているのかもしれませんが。開発部門は男女分け隔てなく活躍できます。それは女性がどんどん社会で活躍しているということだと思います。会社においても、男女の間に差があるって思ったことはないですね。



▲優しい先輩たちのおかげで、いっぱいお話しが聞けました



▲丁寧に私たちの質問に答える先輩たち



▲仕事内容を教わります。モニターに釘付けです！

これから妊娠や子育て等の可能性があると思います。

貴社の女性に対する配慮や制度、取り組みについて教えてください！

#女性に優しいひたちなか #子育てしやすいひたちなか

石川) 先月からお一人産休に入られた方がいらっやって、「がんばれ〜」ってみんなで送り出して、楽しみに戻ってくるのを待っています。あと、うちの会社だけではないんですけど、このテクノセンターの1階に「こきあ森保育園」という保育園があって、この建物の中に入っている企業に勤めている方は、ちょっとお安く入れます。しかも近いですし、安心して預けて働ける環境だと思います。同じ建物にあると送迎の時間も短縮されるし、何かあっても駆け付けられるし、すごくいいシステムだと思います。

魅力いっぱい。住もうよ、“ちょうど良くて便利な”ひたちなか市。

ひたちなか市の魅力や好きなところがあれば教えてください。

#バスの本数増やしてほしい #道がきれい！ #魅力いっぱいのひたちなか #ひたちなかって“ちょうどいい”
#住みやすい街、ひたちなか

関根) やっぱりひたちなか市の魅力といえばひたち海浜公園！

川上) 水族館とかにも近くてすぐ行ける場所も好きです。交通の便が良く、色んなところにすぐ行ける場所というのも良いところだと思います。

石川) ひたちなか市はスーパーとか大型の施設(コストコなど)、暮らしに役に立つ便利な施設がたくさんあります。家賃もそんなに高くないし、とてもバランスがよくてちょうどいい。

関根) ひたちなか市は、住む場所としてとても良い市だと思います。

石川) また、歩道がきちんと広く平らに整備されていること、街灯で明るいところ。それだけで女性に優しいです。よくお子さんを自転車に乗せて走っているお母さんも見かけますが、自転車専用レーンのおかげで安心して通行できていると思います。1つだけ要望を言うとしたら、バスの本数を増やしてほしいですね。

取材協力企業

新熱工業(株)

| 山崎141-5 | ☎ 264-2772 |



ヒーター技術で産業を支える“熱”分野の精鋭集団

工場や店舗の機械装置や厨房機器などに組み込まれる電機ヒーターや加熱機器を製造する新熱工業(株)。その技術は、大手コンビニの揚げ物を調理するフライヤーに使われるなど、飲食、液晶や有機EL、半導体を中心に幅広い業界で活用されています。

経済産業省の「地域未来牽引企業」にも選定される同社の特徴は、受注生産で開発、設計、製造まで自社で行う「一貫生産」。独自の製法や加工技術を強みに難易度の高い製品開発を実現してきました。

創業以来培ってきたヒーターの曲げの技術は自慢のひとつ。「ミリ単位で調整が必要な曲げの手作業は、やり直しが利かない一発勝負。緊張感を持って取り組んでいます」と入社5年目の佐藤直斗さん。「お客さまのニーズに応じ、さまざまな形状に加工するのであきがないです」と微笑みます。

仕事をする上で佐藤さんが心に刻む「現状維持をよしとせず、常に向上心を持とう」という大谷直子社長の言葉。業務改善提案制度が定着し、若手も自然とアイデアを言える環境になっています。生産性を上げるには、社員が元気なことが一番。次世代にいかにい職場環境をつくるかを大切にしたい。と社長自ら風土構築にも力をいれてきました。

みんなでやっていこうという気持ちが伝わってくる職場、と佐藤さん。「社会人になると、はじめはつらいことも多いけど、成長していく楽しさがあります。仕事は奥が深い。熱を持って取り組みたいです」



代表者：代表取締役 大谷 直子
 創業年：1982年10月(昭和57年)
 資本金：3,000万円
 売上高：1,779百万円(2018年実績)
 従業員数(男/女)：70人(54人/16人)
 平均年齢：35歳
 月平均残業時間：約20時間
 H31年採用：新卒：1人/それ以外：1人
 初任給：16万円～21万円
 勤務時間：8:30～17:30(年間休日123日)
 有給休暇の平均取得日数 8.5日/年

休日は、友達と映画鑑賞や飲み会を楽しみます。趣味はファッション。地元だけではなく東京へもよく買い物に出かけています。髪型にもこだわる私のオススメは、高校のころから通う美容室「L'Arche」(ラルシュ)。スタッフの方がフレンドリーで話しやすく、自分にあった髪型を提案してくれます。就職活動のときにも、お世話になりました。居心地がよくて、つい寝てしまうことも(笑)



「L'Arche」(ラルシュ)

場所：津田1950-5
 営業時間：月～土 9:30～19:00
 日・祝 9:00～18:00
 定休日：毎週火曜、第3月曜
 問合せ：271-2442



ON
 新熱工業(株) 製造課
 佐藤直斗さん
 津田在住。勝田工業高校卒業。
 平成26年入社。

取材協力企業

(株)エスディーエル

| 元町10-11 | ☎ 275-8841 |



若手でも会社に貢献 自分の可能性の広がる職場

都市ガスの供給や鉄道の運行管理、食品の製造ラインの生産管理、カーナビゲーション・オーディオ制御など、さまざまな分野のシステムを受託開発する(株)エスディーエル。若い世代のいきいきと働く姿が印象的な同社は、若者の雇用管理状況が優良な企業として厚生労働省のユースエール認定を受けています。

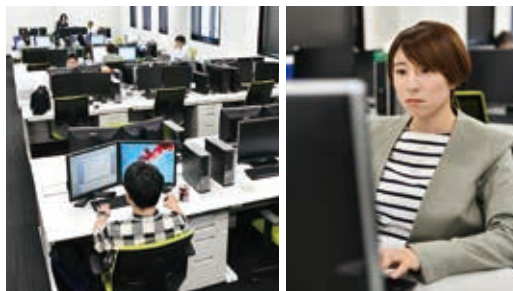
入社3年目の中済温妃さんは、血液分析装置の処理工程を指示するソフトウェアなどを開発しています。大学までプログラミングとは無縁でしたが、女性職員の割合も多く、文系出身でもシステム開発に携わることができる同社の魅力を知り、入社。「先輩に教わりながら、日々できることが増えていくのが楽しいです。コードにバグがなく、お客さまの要望どおりシステムが動いたとき、やりがいを感じます」

また、自社の魅力は「若手にも会社に貢献できる機会があること」だそう。会社の新たな事業発掘のための「アソビゴコロ」プロジェクトは、部署を越えた事業を自由に提案でき、ベテラン、若手関係なく参加することができます。「風通しがよく、無理に飾らず働けます。ここで自分の可能性を広げていきたいです。職場も新しく綺麗ですよ」

吉田君和社長は、「元気に働き、子どもたちに自信を持っていい仕事といえる職場にしたい」と話し、経営理念は、お客さまにとっても、社員にとっても「出会った人すべてが笑顔になれる会社」とほほ笑みます。



代表者：代表取締役 吉田 君和
創業年：1986年2月(昭和61年)
資本金：2,000万円
売上高：4億6,400万円(2018年9月実績)
従業員数(男/女)：60人(40人/20人)
平均年齢：38.2歳
月平均残業時間：約21.5時間
H31年採用：新卒：3人/それ以外：1人
初任給：19.4万円～21.1万円
勤務時間：9:00～17:30(年間休日125日)
有給休暇の平均取得日数 15.9日/年
育児休業取得：男0人、女3人(H27～30年度)



休日には、外で活動することが好きで、海岸を散歩して、ウミネコを眺めたり、キャンプに出かけたり。趣味はスノーボードで、冬からシーズンを終えるまで楽しんでいます。そんな私が、家庭的な味を食べたくなった時に行く「紬家」。7種類の焼き魚から2種類を選び、貝だくさん味噌汁とごはん山盛りの定食が食べられます。スタッフと店内の雰囲気も温かく、落ち着く場所です。



紬家

場所：共栄町6-8
営業時間：17:00～22:30
定休日：日曜日、不定休
問合せ：219-7078



ON

第2開発グループ
中済温妃さん

市内在住、出身は岩手県。
茨城大学卒業後、平成29年入社。

取材協力企業

(株)あ印

| 沢メキ1110-9 | ☎ 263-2111 |



こだわりの海の幸を食卓へ

ひたちなか市のたこ加工生産量日本一を支える(株)あ印は、スーパーの鮮魚コーナーに並ぶ蒸したこやいか、えびのほか、農林水産大臣賞受賞の「中華いか山菜」など300種類の惣菜を製造し、多くの人に愛されています。

設立して以来おいしさを追及し、独自のスチーム製法で素材のうま味を閉じ込める『うま味凝縮製法』を開発。経済産業省のはばたく中小企業・小規模事業者300社にも選ばれ、製品は海外にも輸出しています。

入社6年目の斉藤直暉さんは、小さなころから釣りが趣味で、おじいさんと採ったタコを家で蒸して食べるなど、海産物が好物でした。就職先を探るとき、直暉さんの目に留まったのがあ印。好物を作る会社に勤めたい、と食いしん坊な志望動機だったそうです。入ってみると会社は大きな家族。社長から1年目の社員まで、気さくに話ができる環境です。

「自社製品は検食も兼ねて、社員全員が毎日食べています。毎日食べても飽きないのが自慢ですね」昼休みに検食しながら、味の変化はないか確認し、こんな商品が欲しいねと話しています。

社長をはじめ上司が自分の意見をしっかり聞いてくれて、自分の気づけない大事な部分を指摘してくれる。休みの日に展示会に足を運ぶなど、自分から率先して学び、先輩たちの背中を見て日々成長しています。

「自分がやりたかった仕事。ずっとここで仕事をしたいです」



代表者：代表取締役 鯉沼 勝久
 創業年：1887年3月(明治20年)
 資本金：4,500万円
 売上高：42億円(H30年実績)
 従業員数(男/女)：148人(59人/89人)
 平均年齢：29歳(社員)
 月平均残業時間：約20時間
 H31年採用：新卒：5人/それ以外：0人
 初任給：18万円～35万円
 勤務時間：8:00～17:00(年間休日113日)
 有給休暇の平均取得日数 7日/年
 育児休業取得：男0人、女4人(H27～30年度)

今でも釣りは趣味で、友達や兄とよく出かけています。また、休日には、ファッションクルーズニューポートひたちなかに出かけ、ショッピングや映画を楽しみます。

海産物が大好きな私のオススメスポットは、やっぱり海。阿字ヶ浦海岸沿いの道路を車で走るだけでも気持ちがいいです。夏には、海水浴や花火大会も楽しめます。家族では、タコの形の花火が上がると「たまや～」ではなく「あ印～」と盛り上がっていますよ(笑)



阿字ヶ浦海岸



ON
 (株)あ印 生産SK
 斉藤 直暉 さん
 大洗町在住、水戸市出身。
 水戸農業高等学校卒業後、
 平成26年入社。

取材協力企業

アポロアイシーティー(株)

| 東石川2611-49 | ☎ 229-2001 |



風通しのよい職場で、何歳になっても成長していきたい

鉄道の運行管理や自動車、電話回線、電力などを制御するシステムを開発するアポロアイシーティー(株)。中でも特徴的なのが日本で唯一のシステムと言われる「戸籍受付支援システムKOSEKIガイド」。特許を取得し、自治体戸籍窓口で活用される同システムは、操作性に優れ、瞬時に必要な情報へアクセスできることなどが評価され、いばらきデザインセレクションを受賞しています。

誰もが関わる「戸籍」のシステムに興味を持ち、入社した2年目の北爪さん。法律の改正に合わせたバージョンアップを中心に、日々システム開発や保守に取り組んでいます。「システム開発は9割がプログラミングとっていましたが、お客さまが求めるシステムに近づけていくための打ち合わせなど、人と関わることも多い仕事です。必要に応じて専門知識を勉強しないとよりよいシステムにするための改善点は見つかりません。常に考え抜いて作業しています。まだ大きなシステムの一部を担当することが多いですが、自分の仕事が納品先で役に立っているところにやりがいを感じます」

創立22年。活気にあふれ、風通しのよい職場、と北爪さん。年次休暇の計画的な取得や育児休業の取得など、働きやすい職場づくりを積極的に進めているということで市の男女共同参画推進事業所表彰を受賞しています。

「会社とともに、現状をよしとせず、何歳になっても成長していきたいです」



代表者：代表取締役 岩永 美香
 創業年：1997年7月(平成9年)
 資本金：300万円
 売上高：1億1,000万円(22期決算実績)
 従業員数(男/女)：23人(18人/5人)
 平均年齢：29歳(社員)
 月平均残業時間：約30時間
 H31年採用：新卒：2人/それ以外：6人
 初任給：18.5万円～20万円
 勤務時間：8:30～17:15(年間休日124日)
 有給休暇の平均取得日数 10.5日/年
 育児休業取得：男0人、女1人(H27～30年度)

私のオススメスポットは、スパーク青葉。社会人になってから運動不足だったので通い始めました。豊富なマシンが揃い、開放的な空間で体を動かすと、気持ちがいいです。通い始めてすぐ、家族や友人に体が引き締まってきたねと言われ効果が実感できました。今では、週に5日の筋力トレーニングが趣味になります(笑)



フィットネスクラブスパーク青葉

場所：青葉町9-10
 定休日：木曜日
 問合せ：354-5020
 ※料金等は問い合わせください。



ON

ソフト開発セクション クリエーター
 北爪 大樹さん
 外野在住、福島県いわき市出身。
 拓殖大学卒業後、平成30年入社。

取材協力企業

(株)幸田商店

| 平磯町1113 | ☎ 263-3737 |



ほしいもで茨城の魅力を発信したい

ほしいも業界で国内トップのシェアを誇る幸田商店。健康的な毎日をおいしくサポートをモットーにほしいも・きなこを中心とした農産加工品の製造・販売をしています。アジア、そして世界最大のほしいも流通業を目指す同社では、おいしさへのこだわりはもちろん、価格帯やパッケージデザインなどのそれぞれの市場に応じたきめ細かいマーケティング、HACCP(ハサップ)を含む食品安全マネジメント規格をほしいも業界で初取得するなど、お客さまを第一に考えた製品づくりが行われています。

入社4年目の前野さんは、売り先に合ったパッケージのデザインや容量の仕様の調整、新商品の開発などに携ります。

「例えばドラッグストアでの販売であれば、健康意識の高い人に向けたデザインにするなど。どんな場所に置かれ、どんなお客さまが手に取るのか、イメージを浮かべながら考えています。悩みながら手がけた製品が、店舗に並んでいるのを見たときや、おいしいと言ってもらえたときにやりがいを感じます」

また、自社の魅力を「現場を仕切る国産ほしいものリーダーを20代が勤めているなど、若手が自分の意見を出せる会社です。社長とも気軽に相談できるのは、中小企業のいいところ」と前野さん。

「自信を持った自社製品で、茨城のおいしいほしいも、そして地元茨城の魅力を発信していきたいです」



代表者：代表取締役 鬼澤 宏幸
 創業年：1948年5月(昭和23年)
 資本金：1,100万円
 売上高：28億円(年間実績)
 従業員数(男/女)：140人(70人/70人)
 平均年齢：37歳
 月平均残業時間：約26時間
 H31年採用：新卒：6人/それ以外：6人
 初任給：15.4万円～18.8万円
 勤務時間：8:00～17:00(年間休日108日)
 有給休暇の平均取得日数 15日/年
 育児休業取得：男0人、女2人(H27～30年度)

趣味はフットサルにサイクリング。サッカーが好きで鹿島アントラーズ観戦にも出かけています。そんな私のおすすめスポットは、グレートリーフ。スイーツが好きで、疲れて甘いものが食べたくなったときに立ち寄ります。お気に入りにはガトーショコラにサクサクエクレア。チョコ好きにはたまりません(笑)



グレートリーフ

場所：大平1-13-1
 営業時間：9:00～19:00
 (土日祝は18:00まで)
 定休日：水、木曜日
 問合せ：272-0480



ON
 商品開発課
 前野 裕一さん
 水戸市在住。専修大学卒業後、
 平成28年入社。

取材協力企業

檜山工業(株)

| 高場1730-11 | ☎ 212-6881 |



自分にできる最高の加工を

テレビやパソコンなどの製造に使用される電子部品用絶縁テープの加工を主体にスリット加工業を牽引してきた檜山工業(株)。あらゆる素材を用途に応じて切断し、芯に巻き取るスリット加工のほか、液晶の保護フィルムに使われる粘着塗工加工、光ファイバ加工など、中間加工業として活躍してきました。同社は、社会的に優れた中小企業が表彰される「グッドカンパニー大賞」優秀企業賞を受賞しています。

リチウムイオン電池に必要なフィルムのスリット加工を担当する入社10年目の根本淳志さんは「金属異物の混入があると、ショートして爆発したりする。千分の一、万分の一のミスも許されない。常に緊張感を持って仕事に臨んでいます」と話します。

技術の面では、まだまだ先輩から学ぶことが多いそう。「同じ材料でも少しの厚みの違いで、巻いたときの直径が変わってしまいます。機械の設定の基本はありますが、物を見てロールの巻き方や引っ張る力など設定をしなければなりません」と奥深さを語ります。

仲良くアットホームな職場ですがプロ意識は高いです。「規格内に入っている、巻きずれしているものと綺麗なものを、自分が買うとしたらどっちを買う？」という上司の言葉は印象に残っています。その言葉を胸に自分にできる最高のものを作ろうと心がける根本さんは「綺麗に製品が仕上がったときには、達成感も大きいです」と話していました。



代表者：代表取締役社長 檜山 寛
創業年：1961年10月（昭和36年）
資本金：9,900万円
売上高：2,453百万円（2018年度実績）
従業員数（男/女）：159人（108人/51人）
平均年齢：41歳
月平均残業時間：約5時間
H31年採用：新卒：0人/それ以外：4人
初任給：18万円～20万円
勤務時間：8:00～17:00（年間休日116日）
有給休暇の平均取得日数：13日/年
育児休業取得：男0人、女8人（H27～30年度）

趣味はキャンプで2カ月に1回は、家族で山に出かけています。焚き火しながら、ゆっくり過ごす夜の時間が好きです。パン好きな私のおすすめスポットは、ぐるぐる。見た目も綺麗で多彩なパンがずらりと並びます。特にお気に入りののが奥久慈卵のとろ～りクリームパン。クリームが絶品で手土産にしても喜ばれます。



パン工房 ぐるぐる ひたちなか店

場所：中根3174-6
営業時間：9:00～18:00
定休日：水曜日
問合せ：219-8520



OFF



ON

勝田事業所製造部
根本 淳志 さん
那珂市在住、日立市出身。
日立商業高校、高千穂大学卒業後、
平成22年入社。

取材協力企業

(有)小林製作所

| 津田2031-134 | ☎ 272-0246 |

学び続ける姿勢で、ものづくりマイスター認定

自動車部品や電気部品を中心にアルミ、銅、ステンレス等の金属部品の機械加工を行う(有)小林製作所。特に、削りから穴あけなどの複数の加工を一つの機械で完結できるターニングセンタ(旋盤型複合加工機)を使用した複雑な加工を得意としています。各作業者が、図面からの段取り、加工、測定と幅広く業務をこなす技術や知識を持つことで、量産部品から少量多品種の加工まで、細かな要望に応じています。

難しい加工であるほど、やり遂げたときの達成感があると入社16年目の佐々木謙有さん。「右から左に削るか、左から右に削るか。ゆっくり削るか、ちょっとずつ素早く削るのか。どうする方法と、道具を使うのか。選択一つで仕上がりが変わります。機械加工は奥が深い」と話します。

佐々木さんが胸に刻むのは、入社間もない頃に社長から送られた「技術は身に付けたもの勝ち」という言葉。上司や先輩の技術を積極的に学び、講習会などで最新の知識を身につけ、その磨かれた技術や知識から厚生労働省・茨城県ものづくりマイスターに認定されています。3職種での特級の認定は全国でも数えるほどといえます。

学校や企業では、講師として実務の指導や技能検定の試験対策などにも協力している佐々木さんは、「身に付けた技術は一生もの。おもしろいと思うものを見つけて、突き詰めてもらえたらいいですね」と話していました。

代表者：代表取締役 小林 春治
創業年：1970年2月(昭和45年)
資本金：300万円
売上高：1億7,500万円(R1年7月期)
従業員数(男/女)：21人(16人/5人)
平均年齢：57歳
月平均残業時間：約14時間
H31年採用：新卒：0人/それ以外：3人
初任給：18.5万円～
勤務時間：8:00～17:00(年間休日115日)
有給休暇の平均取得日数：6日/年



車が好きで、趣味はドライブです。サーキットを走りに行ったり、レースを見に行ったり。そんな私のおすすめスポットは、酒列磯前神社。神秘的な木々のトンネルや海の見える鳥居など、美しい風景に出会えます。また、近くの海岸線もお気に入りのドライブスポットです。



酒列磯前神社
場所：磯崎町4607-2
問合せ：265-8220



ON
取締役工場長
佐々木 謙有さん
津田在住、宮城県出身。
石巻専修大学卒、平成15年入社。

取材協力企業

(株)ネクサスソフトウェア

| 勝田中央10-7 HL勝田中央ビル6F | ☎ 229-1041 |



働きやすい職場が、使いやすいシステムを生み出す

「社員が自分の会社を普通に好きだと言える会社になりたい」という安好示社長の言葉に、「会社も仕事も好きです」と笑顔で返すのは、入社5年目の片野さん。「個人のライフスタイルや意見を尊重してくれるし、資格取得などスキルアップしたいときは背中を押してくれます。こうした働きやすい環境で、年代の垣根なくワンチームで仕事に取り組めることは、本当にありがたいです」と続けます。

鉄道の運行・電力管理や旅客案内、消防管制など、私たちの暮らしを支えるシステムの開発を手掛ける(株)ネクサスソフトウェア。同社の車両運行関係システムの技術は、業界内での信頼も一際厚い。現在は、建設機械メーカーが開発中の鉱山で無人走行する大型ダンプトラック自立運転システムなどの新たなシステム開発支援にも力を入れています。

片野さんは、消防業務の実績管理をシステム化し、報告や統計作成を円滑にする「消防業務支援システム」の開発・ヘルプデスクを担当。「システムの開発からサポートまで、一貫してお客さま目線を意識。操作を迷わない、直感的に使えるシステムづくりを心掛けています」と片野さん。

「だれもがスムーズに操作できるよう、完成したシステムを、あらゆる視点でテストします。その分、工程も増えて大変ですが、この作り込みが、システムの完成度とお客さまの満足度につながります。自分の作ったシステムがお客さまの期待に応えられたときは、やっぱりよかったなと、やりがいを感じます」



代表者：代表取締役 安 好示
創業年：2013年9月(平成25年)
資本金：500万円
売上高：2億471万円(2019年7月実績)
従業員数(男/女)：29人(25人/4人)
平均年齢：40.2歳
月平均残業時間：約20時間
R2年採用：新卒：1人/それ以外：4人
初任給：18万円~19.5万円
勤務時間：9:00~18:00(年間休日122日)
有給休暇の平均取得日数：9.2日/年
育児休業取得：男1人、女1人(H28~R1年度)

中学校の部活動から始めた吹奏楽を今でも続けています。現在は社会人の吹奏楽団に所属し、練習に励んでいます。楽器はトランペット、花形ですね(笑)

そんな私のオススメスポットは、コンクールや定期演奏会の会場としても馴染み深い、ひたちなか市文化会館。音の響きが心地良く、練習場としてもオススメ。私の青春時代の思い出が詰まった大切な場所です。



ひたちなか市文化会館

場所：青葉町1-1
問合せ：275-1122



システム開発部
片野 俊葵さん
ひたちなか市在住、那珂市出身。
常磐大学卒業後、平成28年入社。

ひたちなか市で **働く** **暮らす** **好き**になる

取材協力企業

(株)ラフトレイド・エンジニアリング

| 新光町38 ひたちなかテクノセンター4F | ☎ 264-2290 |



ものづくりに一貫した技術力で、お客さまが頼れるパートナーに

原子力・火力等発電所の配管設計およびサポート、エンジンやトランスミッションに関わる車載モジュールシステムなど、ハードウェアとソフトウェアの両方からものづくりに関わるラフトレイド・エンジニアリング。この幅広い技術を連携・応用していくことで、お客様のさまざまなニーズに応じています。

入社3年目の関寿稀斗さん。入社きっかけは「もともと興味があった業種。その中で、弊社が手掛ける業務に心引かれました。新しい会社で、若い世代が多く活躍していることも好印象でした」とほほ笑みます。

現在は、発電所の配管設計サポートを担当。設計図の納品スケジュール管理などに携わります。

「設計部門から図面データを受け取り、内容をチェックして発送部門につなぐのが私の仕事。この一連の流れを円滑にする進捗・実績管理を心掛けています。データの受け渡しを頻繁に行う業務なので、各工程で入念なチェックを重ね、品質の高さを意識しています」

担当する業務のほかに、リーダーとしてチームをまとめることも関さんの仕事。「私自身まだまだ経験が少ないので、上司に相談しながら仕事を進めることも多いですが、新しいことにも積極的に挑戦し、会社と共に成長していきたい」と頼もしく話します。これからも、経験と知識を積み上げながら、お客様のパートナーとして、業界最先端を行くものづくりに取り組みます。



代表者：代表取締役 大久保 賢志
創業年：2015年1月（平成27年）
資本金：2,000万円
売上高：3億6千万円（2019年12月実績）
従業員数（男/女）：150人（102人/48人）
平均年齢：32.5歳
月平均残業時間：約20時間
R2年採用：新卒：1人/それ以外：11人
初任給：15万円～35万円
勤務時間：9:00～18:00（年間休日126日）
有給休暇の平均取得日数：10日/年
育児休業取得：男1人、女3人
（H28～R元年度）

休日には、地元の少年野球チームでコーチをしています。社会人になっても野球を続けたかったので、自分から売り込んで入れてもらいました（笑）。

体を動かすとお腹が空きますね。お肉好きの私が、友人とよく行くお店が、那珂湊にある焼肉もらんぼんです。よく注文するのは、ボリューム満点の焼肉盛り合わせ。おいしくて居心地も抜群です。



焼肉もらんぼん

場所：相金町16-7
問合せ：263-3920



ON

事業統括部 機械設計事業課
関 寿稀斗さん
市内在住、出身。
那珂湊高等学校卒業後、平成30年入社。

OFF

取材協力企業

(株)ニシテック

| 高場1673-27 | ☎ 212-6810 |



確かな品質検査で不良「ゼロ」を実現

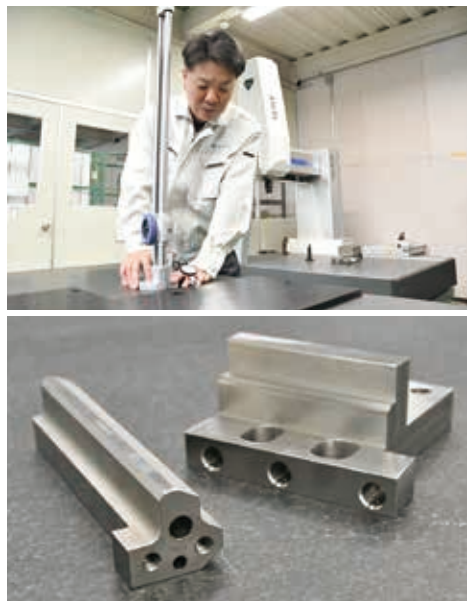
電気機器などの生産設備用加工部品の調達や、工業用自動化・省電力機器などの生産設備に関する設計・製作を手掛ける(株)ニシテック。

近年開発した「色柄センサー」は、部品や材料の色柄を高精度に判別する装置で、これまで人の視覚などに頼っていた製品検査の自動化や、製品の組み立てミス防止などに効果を発揮。建材、住宅設備、繊維など各業界から注目の集まる最先端の技術です。

自社の強みを「他の企業ではできないこと、特異性を持つこと」と話す西川代表取締役。そのひとつの答えでありチャレンジが「海外調達」。ニシテックでは、海外のサプライヤー（仕先）とのつながりを活かし、多品種小ロットの部品にも幅広く対応しています。

そこで重要となるのが、国内外のサプライヤーへの技術指導から納品後の製品検査を受け持つ「品質管理業務」。担当する入社5年目の高野さんは「検査技術や知識の修得はもちろん、加工から検査までの製造工程全体を理解して、品質管理を行っています。また、技術指導の際は、現場まで入り込んでやり取りしています」と力強く話します。

「一緒になってものづくりに取り組んだサプライヤーの意識が変わってきたときや、製品の品質が上がってくると、やってきて良かったと思いますし、やりがいを感じます。これからも、向上心と責任感を持ち続け、より高い品質を目指します」



代表者：代表取締役 西川 知潮
創業年：2002年2月（平成14年）
資本金：300万円
売上高：5億1,582万円（2020年12月末実績）
従業員数（男/女）：20人（14人/6人）
平均年齢：48.9歳
月平均残業時間：約17.6時間
勤務時間：9:00～18:00（年間休日122日）
有給休暇の平均取得日数：11日/年

昨年は家で過ごす時間が多かったため、何か新しいことを始めようと思い、前から興味があったドローンを購入しました。家族と一緒に空撮を楽しんで、リフレッシュしています。

私の行きつけの美容室「パーミーズ」は、いつも丁寧な仕事と、お客に寄り添った気遣いで迎えてくれます。仕事に対する高いプロ意識には、自分の仕事に通じるものを感じていて、異業種ですが刺激を受けています。



Cut shop burmese

場所：高場2-5-5
営業時間：9:00～19:00
（日祝は18:00まで）
定休日：不定休
問合せ：352-2556



ON

品質管理グループ
高野 俊典さん

市内在住、筑西市出身。
結城第一高等学校卒、平成27年入社。

取材協力企業

(株)三富子ケース

| 十三奉行1940-2 | ☎ 263-3211 |



主役(中身)の魅力を引き立たせる名脇役に

「吉数の三、富士山の富、十二支のねずみの子ね。縁起の良い3つの言葉が重なっている社名は、縁起のいいまちひたちなかにぴったり」今年で創業61年目、大畑代表取締役は笑顔で話します。社名のとおりに、ケースを手掛ける三富子ケース。ケースの中に入るものは、指輪・ネックレス、勲章・表彰メダル、レンズ等の理化学機器などさまざま。中身に合わせた完全オーダーメイドや、既製品ではない大量生産というセミオーダーメイドなど、サイズ、色、素材、数量までお客様の要望に対応し、かつ迅速に製作できるのが強みです。

木工から生地のカット・張り、仕上げの組み立てまで、ケース作りの各工程を受け持つのが、三富子ケースの「ものづくり女子」たち。入社7年目の平井京子さんもその一人。内職で1年勤めてからパートになり、現在は正社員として、製造と商品開発を担当します。

入社のきっかけは「元々ものづくりが大好きで、求人を見かけからずっと憧れていました。ここで働きたかった」とほほ笑みます。

三富子ケースでは、働きやすい勤務時間の設定(午前9時～午後3時50分)、休暇を取りやすい体制整備(業務の引き継ぎ・共有)県民の日はお休みなど、女性が安心して働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

「自身の上達にやりがいを感じながら、楽しく働けます。完成時の充実感は言葉にできません。チャレンジが好きなものづくり女子の皆さん、ぜひ内職から始めてみませんか?」



代表者：代表取締役 大畑 仁人
 創業年：1960年11月(昭和35年)
 資本金：1,000万円
 売上高：5,000万円(2020年5月末実績)
 従業員数(男/女)：9人(3人/6人)
 平均年齢：47歳
 月平均残業時間：約0時間
 勤務時間：8:00～17:00(年間休日119日)
 有給休暇の平均取得日数：20日/年

最近キックボクシングに熱中しています。運動不足やストレス解消にぴったりで、私は週2日1時間でエクササイズしています。

地元グルメでおすすめなのが「はるのや食品」です。名物の「さんまの甘露煮」がとにかく絶品。贈り物用に地元で贈ると、すごく喜ばれます。もちろん私も大好物。

他にも、まぐろの角煮や赤魚の煮物などもおすすめです。ぜひ一度、食べてみてください。



有限会社 はるのや食品

場所：八幡町5-8
 営業時間：8:00～18:00
 定休日：1月1日～3日
 問合せ：263-0509



OFF

ON

商品開発部
 平井京子さん
 市内在住、埼玉県行田市出身。
 平成26年入社。

取材協力企業

(株)システムリンク

| 西大島2-3-6アシストビル2F・3F | ☎ 275-6117 |



情報技術で人の健康を守りたい

工場の図面管理・生産管理システムや、近年急速に普及しているモバイル決済、カーナビゲーションのオーディオ制御など、さまざまな分野のシステム開発やメンテナンスを行う(株)システムリンク。

現在は、自社の在宅勤務体制の拡充に取り組んでいて、ひとつのプロジェクト(仕事)をサービスや機能など分野ごとに切り分け、よりコンパクトな仕事を創り出すことで、在宅ワーカーや子育て世代に合った、新しい働き方を模索しています。

自身も子育て真っ最中と笑顔で話すのは、入社3年目の大貫佐太陽さん。薬の調剤工程から在庫管理・出荷まで、製薬工場全体を動かす「医療品生産管理システム」のカスタマイズを担当しています。

「システム規模が大きく、扱う処理や通信も多岐に渡ります。特に薬の配合量や効きの強さの計算は、人の命や健康に直結するため、正確性を追求してプログラムを考えます」と真剣な表情を見せます。

「就職前は音楽活動をしていました。楽曲制作のためにパソコンと向き合う時間が増えていくうちに、自然とIT業界に興味を持ちました。プログラムと音楽は、どちらも細かな要素の集まりという点で似ていると思います。クライアントの要望に応じて、さまざまな処理を正確に組み合わせ、なおかつ簡潔なプログラムが書けたときは、やりがいを感じます」と話していました。



代表者：代表取締役 横須賀 庸一郎
創業年：1989年10月(平成元年)
資本金：1,000万円
売上高：13,781万円(2020年5月期実績)
従業員数(男/女)：16人(12人/4人)
平均年齢：35.6歳
月平均残業時間：約5時間
R2年採用：新卒：0人/それ以外：2人
初任給：19万円~21万円
勤務時間：9:00~17:30(年間休日124日)
有給休暇の平均取得日数：7.5日/年

休日は子どもと一緒に過ごします。近所の公園で遊ぶことが多いですね。平日と休日のメリハリは、意識してつけるようにしています。気になるところがあると、考え続けてしまうので(笑)
そんな私のおすすめスポットは、ロンシャンです。どのケーキも上品でおいしいですが、特にモンブランが大好き。うちの子どものケーキデビューは、次の誕生日になるかな…。一緒に食べるのが今から楽しみです。



パティスリー **ロンシャン**
場所：青葉町19-24
営業時間：10:00 ~ 18:30
定休日：火曜日、不定休
(日曜日は18:00まで)
問合せ：273-5542



OFF

ON

第二システム開発部
大貫佐太陽さん
市内在住、笠間市出身。
茨城県立中央高等学校卒業後、
平成31年入社。

取材協力企業

(株)舟木電業社

| 大成町14-19 | ☎ 272-4331 |

中小企業で「ものづくりの万能選手」を育成

「ものづくりのさまざまな工程に携われるところに、中小企業ならではの『面白み』があります。一つの技術を極めることが求められる業界ですが、オールラウンドプレイヤーも必要。大谷選手のような二刀流、いや三刀流のような」と舟木社長は笑顔を見せます。

3年前から、一人の社員が複数の技術・技能を身につける「多能工化」の教育に取り組む舟木電業社。状況に応じて複数の業務に対応できる体制を目指しています。一つの工程に多くの社員が関わることで、新たな課題や社員の隠れた才能の発見にもつながりました。

国内外の鉄道で使われる、リレーコイルや回路コネクターなどの車輛用電気部品の製作と、その絶縁処理・粉体塗装を手掛ける舟木電業社。これらの電気部品は、緊急列車停止装置や自動ドアの開閉など、鉄道のあらゆる部分で使われています。

入社5年目で工場長を務める渡辺智吉さんは「私たちが作る部品は、外からは見えない、鉄道を縁の下から支える部品。しかし、世界中で毎日たくさんの人やモノを運ぶ、鉄道の一部を作る一人として、大きなやりがいと責任を感じる仕事です」と話します。

「全ての工程で気を抜かず、確実に正確な仕事を継続することで、お客さまに品質を約束することができます。常に責任と誇り、そして、向上心を持って仕事に向き合うことで、良いものづくりができると信じています」

代表者：代表取締役 舟木 健生

創業年：1954年12月(昭和29年)

資本金：1,200万円

従業員数(男/女)：30人(23人/7人)

平均年齢：46歳

月平均残業時間：約15時間

R2年採用：新卒：0人/それ以外：5人

勤務時間：8:00~16:45(年間休日126日)

有給休暇の平均取得日数：10日/年



海の近くで生まれ育ったので、小さい頃から自然と触れ合うことが大好きでした。中でも釣りは、子どもたちと一緒に楽しむにも、一人でリラックスするにも最高のアウトドアです。

ひたちなか市で自然を満喫できるスポットといえば、国営ひたち海浜公園。ネモフィラが有名ですが、3月に見頃を迎える「早咲きスイセン」がおすすです。清々しい香りに癒されたという方、ぜひ足を運んでみてください。



国営ひたち海浜公園



工場長
渡辺 智吉さん
市内在住、日立市出身。
平成29年入社。

取材協力企業

(有)黒沢製作所

十三奉行1928-17 | ☎ 2262-2852 |



精度の高い精密部品でお客様の未来を拓く

ステンレス、銅、アルミなどの非鉄金属を加工し、医療用の分析器や解析装置などをはじめとした、幅広い分野の精密部品製造を行う黒沢製作所。これまでに製作した部品は5,000種類を超えます。製品ではなく「部品」なので、オールジャンルでさまざまな装置に使われ、その精度で高い評価を受けています。

「0.01mm以下の誤差で加工を行う精密部品なので、高い技術は大前提。その上で、品質と工程の『管理』を徹底しています」。そう話すのは、黒澤昌靖専務取締役。これまで10年以上積み上げてきた自社製品情報をデータベース化し、工程や作業の進捗状況、機械の稼働状況、在庫数などを管理する自社オリジナルの生産管理システムを開発。「作業者一人一人にIDを付与し、いつだれがどの工程を行っているか管理。その中で、工程・部品ごとの注意点などを全員で共有できる仕組みを作りました。小ロット多品種の精密加工がうちの強み。多品種でも高い精度で作るために、独自のシステムを導入しました」と力強く話します。

入社3年目の軍司僚さんは、品質保証部門に所属。納品前の製品が基準を満たしているか判別(認定)するための検査などを行っています。現在、認定者に必要な資格取得を目指して勉強中の軍司さん。「今は先輩方のアシスタントをして仕事を覚えています。私たちの検査で見落としがあると即不良発生となるので、常に集中して検査しています」と話す真剣な表情が、充実した毎日を表していました。



代表者：代表取締役 黒澤 政勝
創業年：1988年9月(昭和63年)
資本金：500万円
従業員数(男/女)：20人(16人/4人)
平均年齢：50.5歳
月平均残業時間：約15時間
R2年採用：新卒：0人/それ以外：1人
勤務時間：8:50~17:00(年間休日118日)
有給休暇の平均取得日数：9.4日/年

休みをしっかりともらえる会社なので、プライベートも充実できます。大好きな夏フェス「ROCK IN JAPAN FESTIVAL」には毎年参加。アーティストの迫力ある生演奏で、一日中盛り上げられます。

最近は家でオンラインゲームで遊ぶことが多いですが、学生の時には友達とゲームセンターでよく遊びました。特にジャムジャムは思い出の遊び場です。ゲームでは、相手やミッションを攻略するために対策を練る時間が一番好きですね。



アミューズメントジャムジャム

ひたちなか本店

場所：田中後40-11

営業時間：10:00 ~ 00:00

問合せ：262-3980



ON

品質保証部門
軍司 僚さん

市内在住、那珂湊高等学校卒業。
平成31年入社。

OFF

取材協力企業

(有)黒澤醤油店

| 馬渡1260 | ☎ 272-3776 |

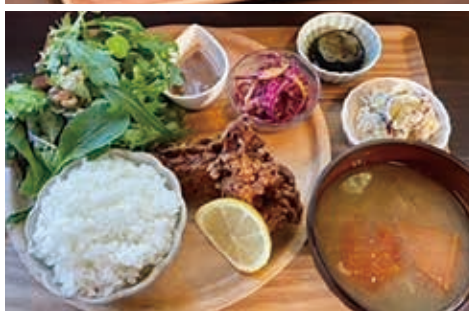


毎日食べる物で美味しく健康になってほしい

今年で創業116年。伝統の木桶仕込みの醤油は、全国醤油品評会優秀賞を過去3回受賞。伝統を守りながら時代に沿った新しい取り組みにも力を注いでいる黒澤醤油店。創業当時からの蔵を改装したレトロなおしゃれな雰囲気の店舗では、醤油はもとより、その醤油をベースにたれ・つゆ、ソフトクリームやプリンなどの醤油スイーツなどを販売しています。「家庭でも手軽に使えるたれ・つゆや、子どもから大人まで楽しめるスイーツをきっかけに、醤油そのものに関心を持ってもらいたい。そのための工夫を常に考えながら仕事に向き合っています」と、にこやかに話すのは、スイーツの販売・開発やカフェの運営を担当する渡邊真樹子さん。店舗併設のカフェは今年3月にオープン。完全予約制のランチのみの営業で、すべてのメニューに醤油や麹などの発酵食がふんだんに使われています。

発酵食品マイスターと発酵食健康アドバイザーの資格を持つ渡邊さん。発酵に関する知識を持ち、もっとお客様に寄り添った接客がしたいと思い、勉強を始めたそうです。「お客様と接するときは、醤油の使い方を積極的に伝えるよう心掛けています。醤油の味を、ぜひご家庭での料理にもっと取り入れてもらいたい。カフェのランチをきっかけに『今日帰ったら作ってみようかな』『醤油で味付けすれば作れるんだ』なんて思ってもらえたらうれしいし、何より日本の伝統的な食文化を伝えるお手伝いができるよう、頑張っていきたいです」と、笑顔を輝かせて話していました。

代表者：代表取締役 黒澤 仁一
 創業年：1905年7月(明治38年)
 資本金：300万円
 従業員数(男/女)：9人(3人/6人)
 平均年齢：42歳
 月平均残業時間：約40時間
 H31年採用：新卒：0人/それ以外：2人
 勤務時間：8:30~17:30(年間休日130日)
 有給休暇の平均取得日数 10日/年
 育児休業取得：男0人、女2人(H27~30年度)



阿字ヶ浦海岸は、子どもの頃から今に至るまで、遊びに仕事に本当によく行っている、思い出がたくさん詰まった大好きな場所。最近では相棒のバイクに乗って行くことが多いです。最初は中型バイクに乗っていましたが、大型バイクに魅了され、すぐに免許を取りに行きました。今では時間があればどこまでも行っちゃいます(笑)バイクで走ると気持ちがあがりますし、ひとりでも仲間とも楽しめるのがいいですね。



阿字ヶ浦海岸



広報・商品開発部
 渡邊 真樹子 さん
 市内在住、出身。平成31年入社。

市内には、日本の産業を支えるさまざまな中小企業があります。
そんな企業でいきいきと働く人たちを紹介します。

※このコラムは市報ひたちなか掲載時の内容です。

取材協力企業

(株)エイブイシー

| 稲田1450-6 | ☎ 272-4711 |



ひたちなかで「宇宙」を創る

「『真空』って、地上では馴染みがない概念ですよ。でも、例えばカップラーメンなどで使われているフリーズドライなんかが真空の技術なんです」と話すのは川村代表取締役。

超高真空技術を用いて、地上にない空間「真空」を創り出す実験・分析装置を提供しているエイブイシー。これらの装置は主に研究機関などで使われ、まだ世の中にない、未知の新素材研究の分野で活躍しています。

入社7年目の菅原さんは、真空技術で実験用基盤を作る装置などの設計を担当。「実験装置は一品一様で、それぞれの研究テーマや方法に合わせてカスタマイズが必要なため、毎回オーダーメイドに近い設計になります」と菅原さん。「何より、使う側の目線に立って設計することを心がけています。実験方法や設置場所など事細かに把握し、とことん使いやすさを追求していきます」と力強く話していました。

国家プロジェクトを支えた真空技術

エイブイシーは、2020年12月に地球に帰還したJAXA「はやぶさ2」プロジェクトに携わり、真空技術を用いて、宇宙から持ち帰った試料を高感度で分析する装置を製造。「PR下手なのであまり知られてないと思いますが(笑)ただ、国家プロジェクトの一端を担った製品が、ひたちなか市で作られているということ、市民の皆さんに知ってもらえたら嬉しいです」と川村代表取締役は照れくさそうに話します。



代表者：代表取締役 川村 政美
創業年：1997年1月(平成9年)
資本金：2,500万円
売上高：5億3,268万円(令和3年12月期実績)
従業員数(男/女)：20人(15人/5人)
平均年齢：35.3歳
月平均残業時間：約12.5時間
R3年採用：新卒：0人/それ以外：1人
勤務時間：9:00～17:15(年間休日123日)
有給休暇の平均取得日数 10日/年
育児休業取得：男0人、女1人(H29～R2年度)

ラーメンが大好きで、外食で迷ったときは、とりあえずラーメン。体が勝手に動きます(笑)

いろいろなお店に行きますが、エイブイシー社員御用達といえば「ファミリーラーメンよりい」。ここでの私のおすすめは、ラーメンではなく「唐揚げ定食」です。とにかくボリューム満点で、食べると午後の仕事を乗り切るパワーがみなぎってきます。ぜひ、食べに行ってみてください。



ファミリーラーメンよりい
場所：稲田1217-9



ON

開発・設計部
菅原 崇成さん

市内在住、東京都足立区出身。
茨城工業高等専門学校卒業、平成27年入社。

～ひたちなか市奨学金返還支援補助金のご案内～

ひたちなか市では、奨学金の貸与を受けて大学等を卒業し、返還を行っている方の奨学金返還金の一部を支援しています。

対象者

次の①～⑥全てを満たす方

- ① 申請時において市内に住所がある方
- ② 奨学金の貸与を受けて、学校（高等学校・大学・専修学校等）を卒業した方
- ③ 奨学金の返還を行っており、滞納がない方
- ④ 市町村民税等の滞納がない方
- ⑤ 他制度による奨学金を対象とした助成・補助を受けていない方
- ⑥ ア～エのいずれかに該当する方（公務員を除く）
 - ア) 市内で保育士・看護師・介護福祉士など市長が認める職種の資格を持ち、市内にある事業所に正規雇用され、資格に基づいて働いている方または働く予定の方
 - イ) 市内の中小企業に正規雇用で働いている方または働く予定の方
 - ウ) 市内で起業し、1年以上継続して事業を行っている方
 - エ) 農業・漁業等の第一次産業を個人で営む方または専ら従事する方で1年以上継続している方

対象となる奨学金

- ひたちなか市奨学資金
- 日本学生支援機構奨学金（第一種・第二種）
- 茨城県奨学資金その他地方公共団体が貸与する奨学資金

支援内容

- 支援金額 申請の前年度に返還した奨学金の額の2分の1（上限10万円/年）
- 支援対象期間 最大8年間

手続きの流れ

- 申請** ① 補助金交付申請書に必要書類を添付し、教育委員会総務課へ提出
- 審査** ② 教育委員会総務課にて書類の確認・審査・交付の決定
申請受付から概ね30日以内
- 交付決定** ③ 交付決定者へ決定通知書及び請求書を送付
- 請求** ④ 請求書を記入し、教育委員会総務課へ提出
請求受付から概ね30日以内
- 交付** ⑤ 補助金の交付

申請から補助金の交付まで概ね1～2か月程度です。

※ 申請資格や申込み方法などの詳細は、市のホームページをご覧ください。

お問合せ先

ひたちなか市教育委員会事務局総務課
TEL: 029-273-0111（内線 7305、7306）

ひたちなか市
奨学金返還支援補助金の
ご案内ホームページ





ひたちなか市 中小企業ガイド 2022

編集・発行 ひたちなか市経済環境部 商工振興課
 〒312-8501 茨城県ひたちなか市東石川2丁目10番1号
 TEL 029-273-0111 (内線) 1341、1342

発行 令和4年3月31日

再生紙と植物油インキを使用しています。



ひとが咲くまち。ひたちなか